



南条っ子

南条っ子は 進んで学ぶ子
思いやりのある子
かいっぱいやりぬく子

目標 ともに学び 豊かな心で未来を切り拓く子の育成

南条小学校だより

R3.6.29 No.21



PTA奉仕作業

6月26日(土)、総務委員会、厚生委員会合同で、奉仕作業を行いました。例年、PTA会員全員で行っているのですが、コロナ禍ということもあり、昨年に引き続き、2つの委員会の役員だけで、エアコンのフィルター掃除、窓拭き、トイレ・手洗い場掃除を行いました。

お陰様で、とても綺麗になり、これから気持ち良く生活できます。ありがとうございました。



『学校保健安全法』 学校環境衛生基準

今から3年前、2018年4月に、文部科学省が全国の小中学校や高校などの教室の室温基準を見直し、全国へ通知しました。これまで、「10～30度」が望ましいとされていた教室の温度が、「17～28度」に変更されました。1964年にこの基準ができてから、見直されたのは初めてでした。背景には、家庭でのエアコンの普及があります。当時は、わずかに1.7%の設置率に過ぎませんでしたが、現在は90%を超えています。「昔は暑さにさらされるのが当たり前だったが、子どもを取り巻く温度環境は変わった。その変化に合わせ、基準を見直した。」とのことだそうです。汗だくでの夏休みの補習等は、昔話になってしまうのでしょうか。

第1回家庭・地域・学校連絡協議会

6月28日(月)、家庭・地域・学校連絡協議会が行われました。この会議は、学期ごとに1回ずつ、年3回行われるもので、「校長の求めに応じて学校運営に関する意見交換、教育活動の視察、学校評価等を通して協議を行い、校長に対して教育活動及び家庭・地域社会との連携等について助言していただく。」ことを目的としています。

メンバーは、保護者代表3人(寺尾PTA会長、今村副会長、笛吹副会長)、地域代表4人(井上社会教育委員、内藤主任児童委員、西山南条っ子を見守る会代表、加藤学識経験者・人権擁護委員)、学校代表3人(校長、教頭、教務)の合計10人です。

今回は、スクールプラン等に対して、ご意見をいただきました。



〇 ノーテレビ・ノーゲーム・ノーネット週間の実施

6月29日(火)～7月5日(月)までの1週間、第2回目のノーテレビ・ノーゲーム・ノーネット週間に取り組んでもらいます。この1週間は、意識して取り組みましょう。(※宿題で、インターネットを利用する時間は除いてください。)

【ネット記事より】

塾なしで合格「頭のいい県・福井」が生んだ“ニュー東大王”が目指す堅実すぎるお仕事
クイズ番組『東大王』で人気上昇中の東京大学教育学部4年伊藤さん。出身は福井県。

■学力テストは常に上位の福井県出身、東大王はこうして育った。

「宿題をさっさとやる子」を育てたご両親のいる福井県越前市を訪ねた。

「小さい頃から、好奇心旺盛な子ではありませんでした。レスリング、逆上がり教室、スイミング、ピアノ、テニス、スキー、ソフトボール。関心のありそうなことは、なんでも体験させましたね。ただし、強制はしていません。また、塾に通わせたことは一度もありません。」

こう語るのは、母、高校の英語の先生をしている。

■伊藤家の唯一の教育方針は、「先生の言うことは素直に聞きなさい」

「自分たちもそうですが、先生というのは、勉強面も生活面も、子供一人一人を見てちゃんと指導しているものです。その先生の言葉を素直に聞いていれば、心配はないはずですから」(父:高校の美術教員、画家)

両親共働きの家庭だから、放課後は学童保育へ。そこでは、宿題を終わらせないと遊べないというルールがあった。

「早く遊びたくて仕方なかったから、学童に行く前、学校にいる間に宿題を終わらせていました」(伊藤さん) 学童の先生の教えを素直に守ったことで、「やるべきことを、できるだけ効率的に済ませる」という習慣が身についたという。

■「大好きな家族のいる福井に帰って、父や母のような先生になりたい」

「高1の夏休み。日帰りできる名古屋や関西の大学のオープンキャンパスには行ったんですが、東京には行かなかったんです。部活を休みたくなかったから。そうしたら先生から、『君は東大も見せておくべきだ。来年は必ず行きなさい』と」(伊藤さん)

それまで、本人にも両親にも東大に進むというイメージはまったくなかった。でも、先生が言うことだから……。志望校に東大を選んだ、そもそものきっかけも高校の先生だった。

「東大に行きたいと自分でも考えるようになったのは、テレビで『東大王』を見てからです。東大生、かっこいい！って思って」(伊藤さん)

やりたい、行きたい、という目標が明確になれば、勉強に集中できるタイプ。

東京という大都会、テレビというキラキラした世界を知っても、伊藤さんの夢は「大好きな家族のいる福井に帰って、父や母のような先生になること」と揺るがない。

～『プレジデントFamily2021年夏号』の一部を引用～

彼の存在を初めて知りました。両親が教員をしているという影響もあるのかもしれませんが、東大へ行って福井県の教員になろうとしていることに驚くとともに、うれしく思いました。

「先生の言うことは素直に聞きなさい」・先生や監督、コーチの言うことなど、素直に聞き、まずは実践してみることが成長の近道だと思います。「嫌だ」「面倒だ」「やりたくない」では、自ら成長を放棄していることとなります。前向きに取り組む気持ちが大切です。